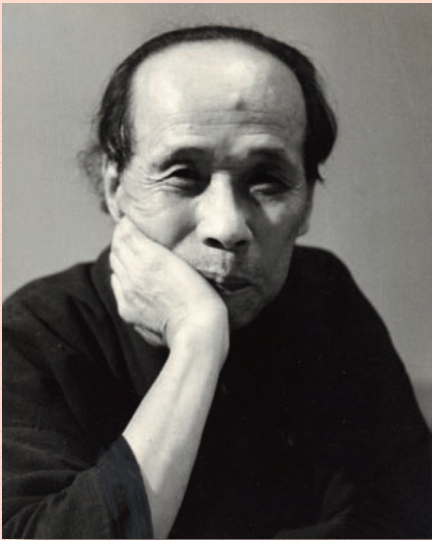


小説

やりたけんいち

鍵田研一

岩国市
(1892～1969)



【著作】

『山室軍平』（昭和11・実業之日本社）
『徳富蘆花』（昭和12・第一書房）
『満州建国記』（昭和17・18・新潮社）ほか

【閲覧情報】

岩国市立中央図書館

山口県玖珂郡今津村（現岩国市今津町）に農家の五男として誕生。本名徳座研一。別号鍵田芳花。

高等小学校卒業後、広島通信学校に入学。在学中、『文章講義録』（日本文章学院・新潮社）によって文学の道に入り、『新潮』に短歌、評論などを投稿。また、宇野千代、菊池寛一等六人とともに『海鳥社』をつくり、回覧誌『海鳥』を発行して、小品や詩などを発表した。

大正三年（一九一四）受洗、大阪同志神学館、神戸中央神学校で、クリスチャンとしての教養を身につけるとともに、語学を学んでいる。

大正九年（一九二〇）同校卒業後、京都四条教会に半年、福井教会に二年間在職。

大正十三年（一九二四）上京、神学校の教師であった賀川豊彦氏の好意で翻訳の仕事を得、文筆生活に入る。

昭和二年（一九二七）に創刊された『農民』同人となり、反マルクス主義の立場から、無政府主義、重農主義的文学論を展開。このころ、トルストイ、ブルードンに傾倒、キリスト教や親鸞への探索も深める。

加藤武雄等のすすめにより、『賀川豊彦』『徳富蘆花』などを執筆、伝記小説のジャンルを開拓した。

満州国政府、関東軍などの膨大な資料と実地調査によって書き上げられた小説『満州建国記』三部作は、五万部を発行。日本文学報国会が創設した第二回大東亜文学賞（次賞）を受賞、国策、文化政策に協力する結果となった。

戦後は、日本農民文学会の結成に加わり、農民文学作品のほか、多数の啓発書を執筆している。

（文・中澤辰江）

【参考文献】

『甦る郷土の作家たち 1』（四季出版刊行）
『岩国文学百年史』大岡昇著（岩国市立図書館）
『日本近代文学大事典 3』（講談社）



著作（県立山口図書館蔵）



若い時のご夫妻（大正13年）

プロローグ

長い旅への出発である。
一九六六年五月二十一日——この時点に立っている私たちの英雄パウロは、まだ若く、長い旅はいつ終るかわからない。皮膚は黒ずみ、眼はかすんで、大きな字しか書けなくなるほどの長い旅である。
しかし、終末の日はかならずやってくる。その日にパウロは殉教する。

パウロよ、お、パウロよ！
おまえの行く道を見守って、私は感激の涙にくれる。
美と調和に溶けたギリシャ文化が、ようやく末期に近づいた時に、地中海の周囲の国々は、ゆかりもなく、肉の為に陶醉した。
その時、人々は美のためにとって、奴隷を椅子にくくりつけて、踵（かかと）からその生皮を剥いだ。それが、文化的ロー人の生活であった。
おまえは、地中海の隅から隅へ 吠えたける狂犬のように、ただ ひとり 大イイエスの宗教と 良心の目ごめの春を告げて回った。
そうだ、そのために 世界は今日の違った世界になったのだった。
それは、あまりに冒険に見えた。盗賊の難、異邦人の難、都会の難、荒野の難、海上の難、偽兄弟の難——それらはまだ、驚くに足らぬものであった、
勞し、苦しみ、しばしば眠らず、飢え渴き、しばしば断食し凍え、裸にせられ、獄に入れられ、鞭うたれ、しばしば死に瀕（ひん）する。

小説「パウロ」の冒頭より
（キリスト新聞に連載され、68回で絶筆となった）



鍵田研一 年譜

（提供・中澤辰江）

明治25（一八九二）年	明治32（一八九九）年	明治36（一九〇三）年	明治40（一九〇七）年	明治43（一九一〇）年	明治45（一九一二）年	大正3（一九一四）年	大正4（一九一五）年	大正5（一九一六）年	大正7（一九一八）年	大正9（一九二〇）年	大正13（一九二四）年	昭和2（一九二七）年	昭和4（一九二九）年	昭和9（一九三三）年	昭和11（一九三五）年	昭和12（一九三七）年	昭和13（一九三八）年	昭和14（一九三九）年	昭和16（一九四一）年	昭和17（一九四二）年	昭和18（一九四三）年	昭和19（一九四四）年	昭和21（一九四六）年	昭和27（一九五二）年	昭和30（一九五五）年	昭和41（一九六六）年	昭和44（一九六九）年
	七歳	一一歳	一五歳	一八歳	二〇歳	二二歳	二三歳	二四歳	二六歳	二八歳	三二歳	三五歳	三七歳	四二歳	四四歳	四五歳	四六歳	四七歳	四九歳	五〇歳	五一歳	五二歳	五四歳	六〇歳	六三歳	七四歳	七六歳
8月16日、山口県玖珂郡今津村789（現・岩国市）に、父鍵田林太郎（農業）の五男として誕生。 玖珂郡麻里布村立今津尋常小学校に入学。 同校尋常科を卒業。 高等小学校卒業。 4月、広島電信学校に入学。9月、同校卒業。 この頃より『新潮』に短歌・評論を投稿（大正6年）。徳座直吉の養子となる。 受洗。 宇野千代らと、海鳥社をつくり、回覧誌『海鳥』を発行（第3号まで）。 大阪同志神学館（のちの大阪神学校）に入学。 神戸中央神学校に転校。 4月『トルストイの生活と芸術』（大阪トルストイ研究会）を翻訳。 神戸中央神学校を卒業。京都四条教会に赴任。稲垣貞子と結婚。 上京。 農民文芸会機関誌『農民』（昭和2年・3年）同人となる。 11月『無産農民の陣営より』（全国農民芸術連盟出版部）を刊行。 トルストイ、ブルードン、キリスト、親鸞の研究。 12月『賀川豊彦』（不二屋書房）を刊行。 7月『石川啄木』『山室軍平』（実業之日本社）を刊行。 8月『徳富蘆花』（第一書房）刊行。 11月農民文学懇話会の設立に参画。（昭和17年日本文学報国会に合流） 6月『島崎藤村』（新潮社）、『樋口一葉』（第一書房）刊行。 4月『生きてゐる土』（新潮社）刊行。『有島武郎』（新潮社）刊行。 大陸開拓文芸懇話会の派遣により、中国大陸を視察。 4月『奉天城―満州建国記 1』（新潮社）刊行。 9月『王道の門―満州建国記 2』（新潮社）刊行。 8月『新京―満州建国記 3』（新潮社）刊行。 5月『蘇峰と蘆花』（潮文閣）刊行。 9月『日本の文学者』（全国書房）刊行。 『手紙百科』（大泉書房）刊行。 農民文芸会結成。『現代エチケツト百科』（大泉書房）刊行。 『キリスト新聞』に小説『パウロ』を連載開始。 1月28日、逝去、普濟寺墓地に埋葬。																											